

東久留米のいきもの(6月7月の野草:水辺や湿潤な場所)No.1



アシ(別名ヨシ):6月29日開花確認。河川で地下茎を伸ばして群生する。 ミクリ:6月9日開花確認。河道の浅瀬などに生育しており、花穂が枝分かれする特徴がある。 カンガレイ:6月8日開花確認。同じ仲間によく似ているサンカクイが生育している。花序に柄が有るのがサンカクイ、無いのがカンガレイ。 オオカナダモ:日本の侵略的外来種ワースト100、外来生物法で要注意外来生物。 カワラケツメイ:7月25日開花確認。市内の個体は、移植された模様。 ガマ:6月21日開花確認。市内では同科のヒメガマ、コガマが見られる。 ヒロハシャゼンオモダカ:7月31日開花確認。中南米産の水生植物。 カントウヨメナ:7月3日開花確認。湿潤な場所を好み多数生育。 セリ:6月29日開花確認。カントウヨメナなどと同様に多数生育。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:水辺や湿潤な場所)No.2



タデ科オオイヌタデ



ミソハギ科エゾミソハギ



シソ科アメリカアゼナ

オオイヌタデ:7月3日開花確認。大きなものでは1m越えもあり河原などの水辺付近で多数生育。

エゾミソハギ:7月5日開花確認。市内の個体は移植された模様。同属のミソハギは絶滅。

アメリカアゼナ:7月18日開花確認。アゼナ:7月18日開花確認。タケトアゼナ:7月11日開花確認。上記3種の「アゼナ」は、生育場所および背丈や花、葉も非常に似ており、順番に「葉の鋸歯が鮮明」、「葉に鋸歯がない」、「葉に目立たない鋸歯あり」などの違いがある。



シソ科アゼナ



シソ科タケトアゼナ



タデ科ママコノシリヌグイ

ママコノシリヌグイ:7月2日開花確認。別名トゲソバと言われており、茎や葉に逆向きの鋭い刺がある。生育数は非常に少ない。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:道端、公園、空き地など)No.3



ウリクサ:7月31日開花確認。主に畑などに生育しており観察することが難しくなった植物。 ザクロソウ:6月23日開花確認。ウリクサ同様な場所に生育しており、減少傾向。 クルマバザクロソウ:6月23日開花確認。南北アメリカ原産で江戸時代末期に渡来した帰化植物。増加傾向にある。 キカラスウリ:6月26日開花確認。株により雄雌があり、果実は大きく長さが10cmほどで熟すと黄色。 カラスウリ:7月13日開花確認。花は夕方から夜にかけて開花して朝には萎んでいる。果実は長さが5から7cm程で熟すと赤くなる。※写真右下の花は2016年7月27日撮影したもの。 オシロイバナ:6月27日開花確認。南アメリカ原産で江戸時代の初めころに渡来したとの事。 メマツヨイグサ:6月29日開花確認。北アメリカ原産の帰化植物で国内全土に侵入している。同属のオオマツヨイグサなどは減少傾向。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:道端、公園、空き地など)No.4



ヒメムカシヨモギ:7月6日開花確認。明治期に持ち込まれた帰化植物。頭花は3.5mmほどでオオアレチノギクより小さい。オオアレチノギク:7月7日開花確認。大正期に持ち込まれた帰化植物。頭花は5mm程でヒメムカシヨモギより大き目。ブタクサ:7月7日開花確認。北アメリカ原産で戦後に帰化した植物。最近では減少傾向。ベニバナボロギク:7月29日開花確認。アフリカ原産の帰化植物。一時期より観察する機会が減少。タケニグサ:6月8日開花確認。背丈が1mを超える大型の在来種。葉や茎を切断すると出てくる乳液は毒性あり。ナガエコミカンソウ:7月7日開花確認。帰化植物で在来種のコミカンソウに似ている。ミョウガ:7月25日開花確認。在来種で日本では食用として栽培されており、林縁部などにも自生。イノコズチ:7月21日開花確認。正式分類ではヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチの2種類あり。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:道端、公園、空き地など)No.5



アメリカイヌホオズキ(7月7日開花確認)とオオイヌホオズキ(6月26日開花確認): 在来種のイヌホオズキの仲間。他にカンザシイヌホオズキやテリミノイヌホオズキがある。イヌホオズキ以外は帰化植物。 マルバルコウ: 6月21日開花確認。北アメリカ原産の帰化植物で江戸時代に観賞用として移入。 ヘクソカズラ: 6月19日開花確認。別名ヤイトバナ。名前は切断したりすると悪臭がすることで英名でも同様。 キツネノマゴ: 7月20日開花確認。昔から薬草として使われてきた植物で山菜としても食されたとの事。 クズ: 7月4日開花確認。大型の在来蔓性植物。海外にも逸出しており世界の侵略的外来種ワースト100選定種。